

令和6年2月22日(木)、令和5年度の大学院生研究発表会が開催されました。今年度は、博士課程学生12名、修士課程学生45名、合計57名の発表が行われました。研究所教員による厳正な審査の結果、オーラル大賞(博士課程)・ポスター大賞(修士課程)が合計7名に授与されました。どの発表においても化学研究所らしい多様な研究分野の最新の研究成果が紹介され、活気あふれる研究発表会となりました。

今回のオーラル大賞受賞者は数理生物情報研究領域(阿久津研)の社会人ドクターの方でした。どうして化学研究所に進学したのか? 研究生生活はどんな感じ? これからの目標は? 化学研究所で過ごす社会人ドクターの塩田さんにインタビューを行いました。



バイオインフォマティクスセンター
数理生物情報(阿久津研究室)
博士課程3年 塩田 光司さん

略
歴

2016年3月 東京大学薬学部薬科学科 卒業 ● 2018年3月 東京大学大学院薬学系研究科薬科学専攻修士課程 修了 ● 2018年4月 日本たばこ産業株式会社 入社 ● 2021年10月 京都大学大学院情報学研究所知能情報学コース博士課程(化学研究所 阿久津研究室)進学

令和5年度 大学院生研究発表会 受賞者



オーラル大賞
数理生物情報 塩田 光司



ポスター大賞
高分子制御合成 岡原 諒汰
生体機能設計化学 吉江 俊介
分子集合解析 三宅 悠季
有機分子変換化学 齋藤 亮平
錯体触媒変換化学 田中 奏多
光ナノ量子物性科学 大毅 裕介

Q1 オーラル大賞おめでとうございます。大学院生研究発表会はいかがでしたか。

自分の研究室だと、バイオインフォマティクス^{*1}の学生の方や先生方がいらっしゃるんですけど、発表会ではそれ以外の色々なバックグラウンドの方に聞いていただいて、それぞれの視点からいろんなご質問をいただけたので、今後の研究活動の参考になり、とても勉強になりました。

Q2 化学研究所を博士課程の進学先として選ばれた理由を教えてください。

関西圏でバイオインフォマティクスを扱っていて、社会人ドクター^{*2}の指導実績のある研究室で探してみても、阿久津先生に連絡を取らせていただきました。そこで研究内容や博士号の取得条件を教えてください、仕事でやっている内容を論文にまとめられること、先生のお人柄や優しく接していただいたことが決め手となりました。

Q3 「社会人ドクター」として化学研究所での研究生生活はいかがでしたか。

端的に言えばとても快適でした。阿久津先生にご配慮いただいたのもあり、本業にほとんど支障なく過ごすことができました。また逆に、私が所属する会社にもご協力いただけたおかげで、大学院でのセミナーや発表会への出席も不自由なくできました。双方のご協力のおかげで、本業と博士課程の両立ができました。

Q4 これからの研究目標やご予定を教えてください。

あと約半年で卒業の予定で、今は博士論文を書いています。会社では、実際に現場で使える創薬のバーチャルスクリーニング^{*3}の手法の開発を目指して、研究をしていくのが今後の目標です。

Q5 これからドクターを取得を目指される方へのメッセージをお願いします。

社会人になってからでも、好きなことや仕事の内容でドクターをとることは可能だと思います。研究室によっては仕事との両立が難しいこともあると思いますが、取得を少しでも考えている方がいらっしゃいましたら、化研バイオインフォマティクスセンターをぜひ選択肢の1つに入れてもらおうと思います。

※1 バイオインフォマティクス

生物学的データ(遺伝子配列、タンパク質構造 etc)を解析し、理解を深めるためにコンピュータサイエンスや統計学、機械学習を活用する学問分野。医学研究や創薬研究で重要な役割を果たす。

※2 社会人ドクター

官公庁や企業等に在籍したままで、博士課程の学修をする社会人。

※3 バーチャルスクリーニング(Virtual Screening)

コンピュータシミュレーションを使用して化合物ライブラリを迅速にスクリーニングし、特定の生物学的標的に対して有効な薬物候補を特定する技術。薬剤開発の初期段階で利用され、膨大な数の化合物を効率的に評価することができる。これにより実験的なスクリーニングのコストと時間を大幅に削減できる。